【大会参加申し込み案内時の対応】

- 主催者は大会申込に際し、感染拡大の防止のため参加チームが遵守すべき事項を明確にし、協力を求める。また、これを遵守できない参加チームには、他のチームの安全を確保する等の観点から大会への参加を取り消したり、途中退場を求めたりする事があり得ることを周知させる。
 - **試合をするチームは事前に「健康チェックシート」を本部に提出する。**

【大会運営基本方針】

- 試合実施について
 - 第2試合以降のチーム入場は、前のチームが完全に退場してから入場を認める。
 - **試合終了したチームはベンチ内の消毒をして退場する。(消毒剤などベンチ内に設置)**
 - **両サイドベンチに特設ベンチ(テント)を隣接し、ベンチ内の密集を防ぐ。**
- 野球場施設内の使用
 - 野球場施設内(トイレ等)の入場は大会運営関係者以外、禁止。(公園内トイレ使用)
- 観客の管理
 - 球場への出入りの際はマスクを着用の義務化。
 - 観戦の際、人との間隔を確保させる。(最低1m以上)
 - 観戦中に大声での「会話」並びに「声援」を控える。
- 野球場施設の入口について
 - 競技役員及び審判員は正面玄関の一箇所に限定。
 - 選手の出入り口はそれぞれ1塁側と3塁側の出入り口に限定
- 競技役員の人数について

最大50人程度の規模を配慮することから、1会場当たりの競技役員人数を概ね次のとおり定める。

 - 役員本部室(3塁側) 5名以内
 - 放送室(中央) 放送員(各チーム1名ずつ)・記録員 1名・点減員 2名
 - 審判室(1塁側) 審判員 1名・運営委員他 5名以内
- 健康管理について
 - 手指の消毒をこまめに行うこと。
 - 健康チェックシートを大会当日に記入し提出すること。大会主催者は1か月保存。
 - ※ 感染を確認した場合、自治体並びに保健所等公的機関に報告する。
- 審判員について
 - 試合中、球審は「黒マスク」又は「フェイスガード」着用を義務化。
但し、イニングの合間にこまめに水分補給するなどして、熱中症の予防には十分注意する。
 - 塁審は、マスク着用はしなくても可。
着用しない場合は、発声せず、オーバージェスチャーでジャッジする。
 - ※ 選手への注意喚起
 - ① グラウンドに「痰」「唾」を吐かないよう注意喚起する。
 - ② 「ハイタッチ」や「グータッチ」等の行為を行わないよう注意喚起する。

【大会主催者が準備すべき事項の対応】

- 手指消毒剤の設置（正面玄関・一塁側・三塁側）入口に3か所設置する。
- 発熱が軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないよう促す。
- 競技役員はマスクを着用する。但し熱中症防止策としてこまめな給水を取るよう努める。
- 大会中の混雑（正面玄関前など）を極力避けるよう促す。
- グラウンド内の消毒
両チームがグラウンド入場前に、両ベンチ内の「椅子」「フェンス」等の消毒を競技役員で行い作業終了後、入場させる。
- 手洗い場所（石鹸ポンプ式の設置・「手洗いは30秒以上」などの掲示をする。）
- 手洗い・うがい
チームがグラウンドに入場する前には必ず野球場施設両側の洗い場にて消毒作業を行う。
その際、各自で「マイタオル」を用意し、共用は厳禁。（競技役員も同様）
尚、作業中の十分な距離を空けるよう各チーム指導者が留意する。
- 野球場施設内の消毒
各テーブル・椅子・マイク等は試合毎に消毒し、施設内トイレのドアノブ・蛇口他は定期的に消毒を行う。（アナウンス担当の方はハンカチを1枚用意。アナウンス時使用）
- 試合球の消毒
消毒済みのボールを球審が「表」「裏」再開毎に投手に渡す。
- グラウンド整備
「トンボ」「コートブラシ」の消毒を使用前に言い、整備は競技役員のみで行う。
全試合終了時は保護者の方々にも依頼する。
- ゴミの廃棄
鼻水・唾液などが付いたゴミはビニール袋に入れて密閉して縛り、回収作業員はマスク・手袋を着用。作業終了後は必ず手指消毒を行う。
- 消毒作業を行う場合
作業員は「手袋」「マスク」「フェイスガード」を着用すること。

【参加チームへの留意点】

- 十分な距離（ソーシャルディスタンス）の確保
試合前後のミーティング並びに試合前のアップを行う場合には前の選手の呼気を避けるため並列・斜め後方など位置取りに注意を要する。
- 飲食については、周囲の人と適切な距離を空け対面・会話は控える。ゴミは各自で処理する。
- 飲み残した飲料水は指定場所以外には捨てない。（グラウンド内厳禁）
- 各クラブで（感染予防策）（熱中症予防策）実施可能な対応を取ってもらう。

※ 状況により緩和・変更の場合がありますので、ご了承願います。